

山口県文書館所蔵史料案内 (三)

庄屋文書 (54~69)

54 井上家文書

熊毛郡大和町塩田 井上八重子 原蔵  
寄贈 昭和52年4月7日 二九三点  
井上家は塩田村の庄屋。文書は同村の山絵図・堤普請など、土地・普請関係の記録のほかに、大坂運送米や高森宿への人馬仕出の記録がまとまってある。

55 井上家文書

大阪市 中尾松泉堂書店  
購入 昭和50年1月20日 三四点  
先祖の井上七郎右衛門は慶長年まで毛利家御家人であったとい、塩田村庄屋であった井上彦左衛門との間に家系をめぐって争論となる。文書の大半が家筋勤功書で、本家・末家争論に關するものである。

56 内藤家文書

下松市米川 内藤善夫 原蔵  
寄託 昭和49年10月24日 八七九点  
内藤家は藩政時代には徳山藩領瀬戸村の庄屋・畔頭役を勤め明治以降には戸長・村長・村会議員などを勤めた。所蔵文書は「巡見上使御案内」、藩の「沙汰控」「戸長役場達書綴」「村内雑報綴」など村政文書を多く含んでいる。このほか、元和三年「瀬戸村打渡坪付帳」、寛延二年「瀬戸村境目書」(地下上申下書)および「勤功書」をはじめ明治・昭和期の「加調米取立帳」、「農地改革」関係文書、それに昭和四〇年代の農家日記にもわたる。

57 石田家文書

徳山市大島 石田与 原蔵  
寄贈 昭和50年2月6日 一〇五点  
石田家は徳山藩大島村の庄屋。明治期に鰯網・鰯網漁の営業に従事したことから、漁業鑑札に關連する文書を含む。また「大福帳」「万覚帳」の簿冊類が文政から天保にかけてまとまっている。ほかに和漢書、大阪朝日新聞(明治三十七年八月~三十八年一二月)を含む。

58 高松家文書

徳山市大島八八〇 高松喜正 原蔵  
寄贈 昭和49年5月1日 一九一点

高松喜兵衛が大島村戸長であったことで伝存した戸長役場文書。「諸願届書控」(明治一〇〇一六)、「地方税取立簿」(明治一二)をはじめ、第二次地租改正時の大島村「地順帳」「土地取調基帳」など。とりわけ同村「分間図」(四〇余点)および天保一二年の同村「絵図」(三〇余点)は圧巻。

59 林家文書

新南陽市富田平野 林 茂昭 原蔵  
寄託 昭和52年6月20日 二三七点

小郡宰判深溝村穴戸領の北ノ江開作の開発(文政一〇〇明治元)から、その永小作権にかかわる小作争議・訴訟裁判(明治八〇一六)に及ぶ文書記録。別称「北ノ江開作関係文書」。北ノ江開作は穴戸・佐世・岡田氏が拜領開作として開作権を入手したものを、小川(林)権兵衛と厚狭郡伯野善三郎(のち美祿郡大嶺村河崎権左衛門)が共同請負で開作。明治の地租改正、地券交付で兩人の所有に帰したが、永小作権を有する小作農民との間に深刻な争議、訴訟に立ち至った。その公訴裁判の証拠資料として整理、伝存されてきた。

60 勝間田家文書

都濃郡鹿野町本町 勝間田義彦 原蔵  
寄託 昭和50年12月17日 一、〇七七

勝間田家は鹿野村において大庄屋・本陣を、明治期には戸長・村長・県会議員を勤めた。文書は江戸期寛政期〜昭和三〇年代までのもので、江戸期のものとして「万治制法」「四冊御書付」の写、「諸沙汰事控」「鹿野御宿割帳」「御救米人別帳」、明治期のものとして「山口県町村長会」関連、「県会日誌」「山口県勸業年報」そのほか「勤功書」「日記」など多量の文書を蔵している。

61 内田家文書

防府市大道 内田 収 原蔵  
寄贈 昭和51年9月9日 四、一〇七

小郡宰判台道村の庄屋内田家の文書を主体に、前当主故内田次郎氏の収集による大庄屋上田家文書・切畑村庄屋原田家文書・大道村役場文書を収容。別称「内田次郎氏収集文書」。「郷勇隊諸控」「攘夷手当諸沙汰控」「狙撃隊人数面着帳」など幕末維新期の村落の動静を伝えるもの(三〇〇余点)をはじめ、内田家が木綿問屋を、上田家が酒屋を営んでいたことなどから、木綿・蠟燭・菜種・養蚕・菓草・酒造・塩浜・石灰・雲母などの生産・流通に関する文書記録(三〇〇点)を擁す。また大庄屋上田少蔵は文人的素養をもったことから、書簡

(七〇〇点)のなかには学者文人からの書簡も少なくない。それに内田次郎氏自身の郷土史研究資料も含んでいる。

62 小田家文書

山口市下小幡 小田伸次郎 原蔵  
寄託 昭和52年6月30日 三三八点

小田家は、幕末に給庄屋を勤めた家であるが、藩政期のものは一〇点余、大半は明治期のものである。藩政期のものは山野関係が多い。「宝暦小村絵図」、天明の「合壁山間教絵」があるが、明治初年の写しである。明治期のものは多様な記録類である。「田畑貸付加調控帳」「雇人記帳」など地主の経営状態を知るものもある。

63 福田家文書

宇部市東本町 福田清輝 原蔵  
寄託 昭和53年7月25日 一二〇点

福田家は徳山藩領福川村において庄屋役・本陣を勤めた。文書は元禄四年から宝暦期間の「書付控」、「福川町下札写」「春定下札写」など藩政関連史料のほか、塩田関連史料として「塩浜実語教」「塩田由来并心得」「譲り申塩浜証文之事」「福川塩浜一軒落札覚」「塩田新開作田畑付立」および和歌・俳諧などを蔵す。

64 伊藤家文書

横浜市磯子区洋光台二丁目伊藤文策原蔵  
寄贈 昭和51年1月14日 一三八点

伊藤家は舟木宰判東須恵村黒石の畔頭。藩政期の文書として勤功書・東須恵村小村絵図・畔頭座年中行事などがあるが、多くは明治期の史料、妻崎開作村開墾地年季明に関するもの、長尾他所有地内における石炭採掘に関する定約書がまとまっている。総点数のうち六四点は和漢書類。

65 中野家文書

豊田県西市 中野景治 原蔵  
寄託 昭和54年2月27日 一、〇八一

中野家は西市において代々大庄屋を勤めた。幕末期中野半左衛門時代には藩の薩長交易を主催するなど藩の御用商人として活躍した。文政九年から明治一九年に至る間の「中野日記」約一〇〇冊、捕鯨記録である「鯨組記録」(天保期)、薩長交易などの「交易物産記録」(安政〜明治期)、通船記録である「佐波川通船記録」および諸川の「通船記録」(天保〜明治期)などは文書の中心をなす。

66 石川家文書

豊浦郡豊浦町湯玉 石川成一 原蔵  
寄贈 昭和49年3月29日 四四〇点

石川家は豊浦藩宇賀湯玉村の庄屋。史料は年貢皆済等貢租関係の記録、庄屋役勤功書など地方関係の記録のほか、難破船の記録・網代争論・下関積廻し米の記録を含む。また石川良平が三井銀行赤間関出張所の役員であったこともあり、三井組に関する記録、馬関電燈会社事業報告等の文書もある。

67 林家文書

豊浦郡豊北町田耕 林 幸蔵 原蔵  
寄贈 昭和49年3月29日 二八四点

林家は豊浦藩田耕村の庄屋役および府町大年寄役を勤め、明治期には県会議員を勤めた。文書中点数の最多のものは「御年貢皆済ニ付一紙返合之事」（文化八年～明治三年）全七五点、ついで「田畑永代売買之事」（文化～明治期）三四点、「冥加金等上納ニ付褒賞」約三〇点。そのほか「巡見上使」「殿様廻園」の諸記録を蔵している。

68 蔵田家文書

阿武郡むつみ村高佐下 蔵田定雄 原蔵  
寄託 昭和52年12月13日 四四〇点

庄屋・畔頭としての勤功書（寛保三～明治二）をはじめ、幕末期の「秋刈野取帳」（嘉永三～明治六）、「田植日記」（慶応）、「諸職人其外日雇日記」（嘉永三～明治六）、「年中行事覚書」（安政六）などの農家記録。それに村役場書記・村会

議員としての庶務綴（明治二二～）、村会記録（明治三七・大正一〇）など。昭和期の「農事実行組更生計画書」（昭和一〇）、「むつみ村明治百年記念事業一件綴」（昭和四三）にも及ぶ。

69 波多野放彩氏収蔵文書

萩市平安古西区一七二一九 波多放彩 収集  
寄贈 昭和40年代 一五五点

波多放彩氏が阿武郡において町村史を編集されていた時代に収集された史料を、文書館に寄贈されたものである。従って文書の内容は多岐にわたっている。その主なものとして、藩政期江崎・田万村浦方史料、明治期では地券一二〇枚、明治四年田万川・紫福村「戸籍帳」嘉年村「寺社に関する書類」、昭和二三年度阿武郡一〇ヶ村「村勢要覧」などが含まれている。